第五回留学報告書

宇隨 佳

マサチューセッツ工科大学
経済学部博士課程

2024 年 6 月

1　はじめに

無事 2 年目を終え、現在は日本に一時帰国中です。授業や課題に追われる日々も今学期をもって終わり、来学期以降は（RA や TA 業務と並行して）本格的に研究を行う段階へと移行していきます。

2　生活

日常生活では特に大きな変化はありませんでしたが、同じプログラムに所属する日本人達と共にゴルフを始めました。MIT のゴルフ部には最新のシミュレータ機器があったり、ゴルフ場でのプレー料金を補助してくれる制度があったりするので、気軽に始めることができました。今後も研究の息抜き程度に続けていきたいです。それ以外には弟が日本から遊びに来たので、ニューヨークまで足を延ばしました。普段大学で研究中心の生活を送っていると、日常生活での新たな気付きも少なくなり、アメリカにいるということを意識しなくなるので、こういった余暇は良い刺激になります。

3　授業と研究

経済学 PhD プログラムでは、2 年目の修了要件として筆記試験や口述試験を課すことが一般的なようですが、MIT では代わりに必要単位の取得と second-year paper の執筆が求められます。今学期履修した授業の中で印象に残ったのは、上級マクロ経済学です。皆さんがよくニュースで目にする中央銀行による金融政策というのは、金利操作などを通じて金融市場に働きかけることで、実体経済（GDP や雇用など）における政策目標を達成しようと試みます。この授業では、そうした政策のメカニズムを理解するために、実体経済と金融市場を橋渡しする理論的枠組みを学びました。これは私が MIT に入学する以前から興味のあったトピックで、現在は授業を担当した教授のもとでこの枠組みに為替市場を取り入れたモデルの構築に取り組んでいます。

研究面では、前回の報告書にもある通り、この 1 年で新たに 2 つのワーキングペーパー（うち一つは second-year paper）ができました。夏の間に共著者と分担して、アジア、アメリカ、ヨーロッパの学会で発表することになっており、来学期開始前に雑誌に送ることが現在の目標です。こ

の2つ以外に、来年腰を据えて取り組みたい新たなプロジェクトが始まったところなのですが、まずは今手元にある研究を終わらせることを優先したいです。

私の研究分野は、ミクロ経済理論とマクロ経済学の二つです。ただ、この二分野にまたがって研究をしている人はそれほど多くなく、両方の分野の研究者に面白いと思ってもらえる研究をするのは難しい部分もあります。そうした中で、よく研究の相談をする教授から、両分野で研究を進めながらも、4年後の就活市場で自分をどちらの分野の研究者として売り出したいかを考え始めたほうがよいというアドバイスを受けました。興味の赴くままに研究を進めるだけではこうした大局的な視点を見失いかねないので、来年はこの点に留意して研究に取り組みます。

4　おわりに

私が無事にこの2年間を終えられたのは船井情報科学振興財団の皆様のおかげです。3年目は、博士課程の集大成になりうる大きなトピックを見つけるとともに、これまで行ってきたプロジェクトを具体的な成果に昇華できるように努めていきます。